

NAGASE

2013年(平成25年)3月期 第2四半期決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

2012年11月22日

NAGASE

◆ 目 次 ◆

- 2013年3月期第2四半期の決算概況
- 2013年3月期業績見通し
- 林原事業の進捗について

2013年3月期 第2四半期の決算概況

連結決算の概況

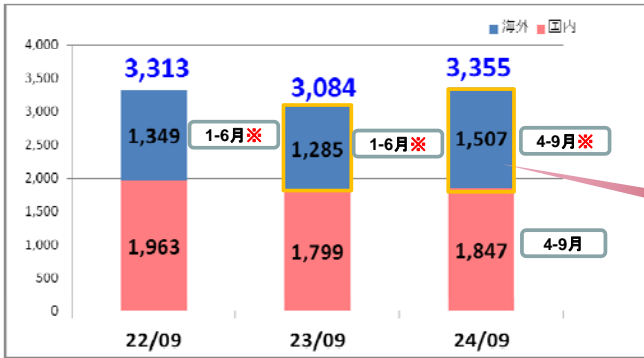
- ・ 海外の需要回復により売上は前年同期比270億円の増収
- ・ 林原の寄与、固定資産売却益もあり四半期純利益は80億円(26億円の増益)

(単位:億円)

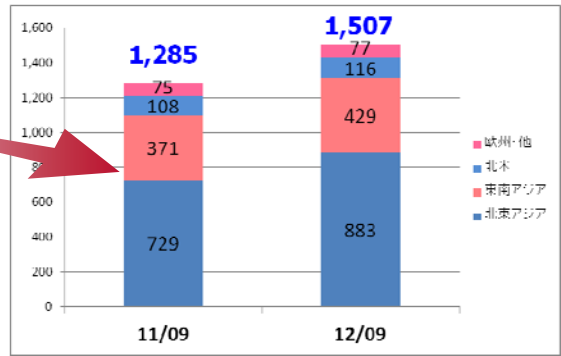
	11/09	12/09	増減	前年 同期比	期初見通し (通期)	進捗率
売上高	3,084	3,355	270	109%	7,000	48%
売上総利益 (利益率)	357 (11.6%)	413 (12.3%)	55	116%	875 (12.5%)	47%
販売管理費	▲279	▲332	52	119%	▲680	49%
営業利益	77	81	3	105%	195	42%
経常利益	92	86	▲5	94%	205	42%
四半期純利益	54	80	26	150%	155	52%
1株当たり四半期純利益	42円04銭	63円23銭				
為替レート	@81.78	@78.96			@78.00	

売上高 3,355億円(国内1,847億円、海外1,507億円)

前年同期比270億円増(国内48億円増、海外221億円増)



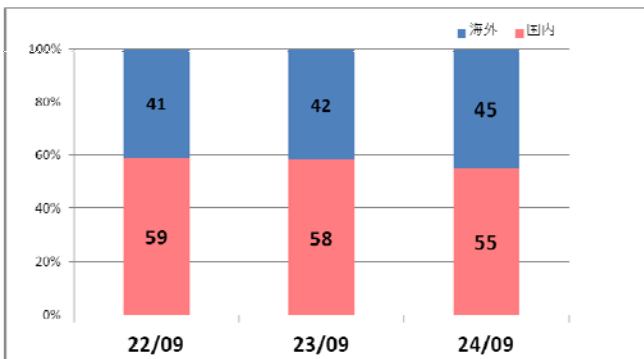
海外売上の地域別内訳(前年同期比)



— 海外売上比率は上昇(42%→45%) —
北東アジア及び東南アジア地域の売上増加の影響により、海外売上比率が上昇。

ドル円平均レート3期推移

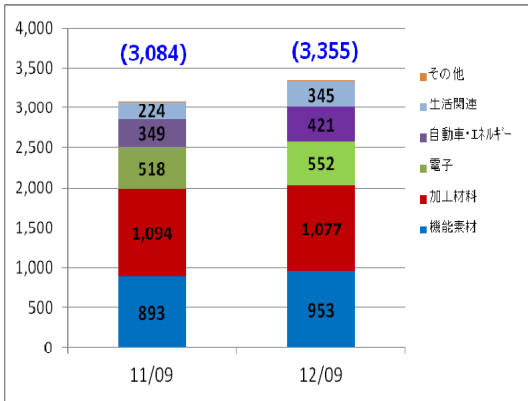
10/1-6月	11/1-6月	12/4-9月
89.02	81.78	78.96
△ 5.9(高)	△ 7.2(高)	△ 2.8(高)



※海外子会社の決算期を統一したことにより、海外連結子会社の会計年度は1-12月から4-3月となっております。

セグメント別売上高

(単位:億円)



事業セグメント別の売上概況(前年同期比)

機能素材 953億円(59億円 V107%)

- 国内は、塗料原料関連等が、建築・自動車用途向けで増加
- 精密研磨関連部材等が電子関連業界向けに減少し、国内全体で減収
- 海外は、シンガポールでのスポットビジネスもあり増収

加工材料 1,077億円(▲16億円 V98%)

- 繊維加工剤等の事業を持分法適用会社に再編集約したことによる減少(▲48億円)
- 国内は、顔料・添加剤関連、情報印刷関連材料等の売上の減少により、全体で減収
- 海外は、アジアでOA・家電向け合成樹脂の増加等により、全体で増収

電子 552億円(34億円 V107%)

- 電子化学品事業は、変性エポキシ樹脂関連は堅調に推移するも、国内半導体及び液晶業界向け薬液の売上が減少し全体で減収
- 電子資材事業は、液晶用フィルム関連の売上が減少するも、国内のLED照明用部材や、北東アジアのタッチパネル用部材等が好調に推移し全体で増収

自動車・エネルギー 421億円(72億円 V121%)

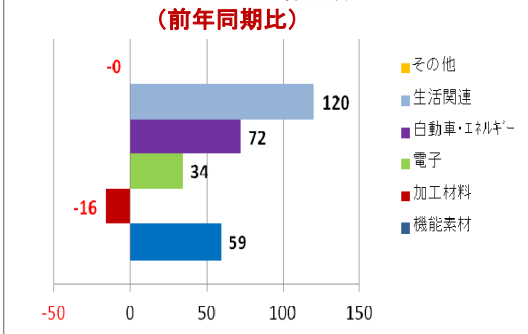
- 国内は、東日本大震災の影響による販売減の反動に加え、エコカー補助金の効果もあり生産台数が大幅に伸長し、全体で増収
- 海外は、日系メーカーの生産台数の増加に伴い、全体で増収

生活関連 345億円(120億円 V154%)

- 篠原の連結により売上が大幅に増加(123億円)
- 篠原以外のファインケミカル事業は、医薬関連は医薬中間体および医療材料等が、酵素関連はナガセケムテックス製剤が、それぞれ堅調に推移
- ビューティーケア製品事業は、主力製品の売上が減少し、全体で減収

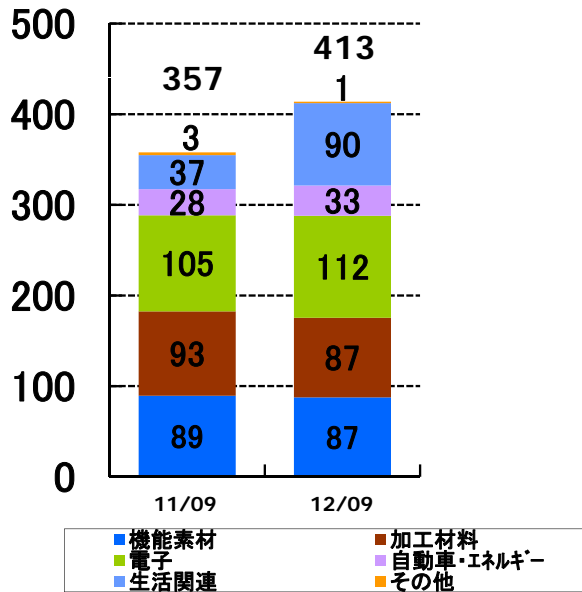
セグメント別売上増減額(前年同期比)

(単位:億円)



売上総利益 : 413億円 +55億円 15.6%増

(単位:億円)

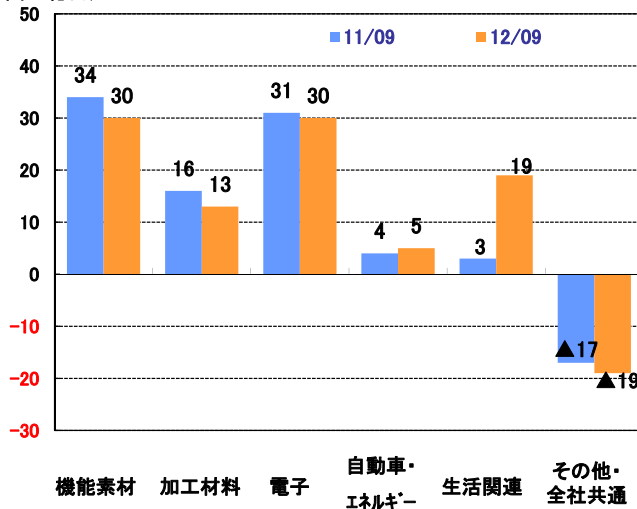


機能素材	87億円	▲1億円	2.0%減
加工材料	87億円	▲5億円	5.7%減
電子	112億円	+6億円	6.3%増
自動車・エネルギー	33億円	+4億円	15.8%増
生活関連	90億円	+53億円	141.6%増

営業利益 : 81億円 +3億円 4.7%増

<セグメント別 営業利益>

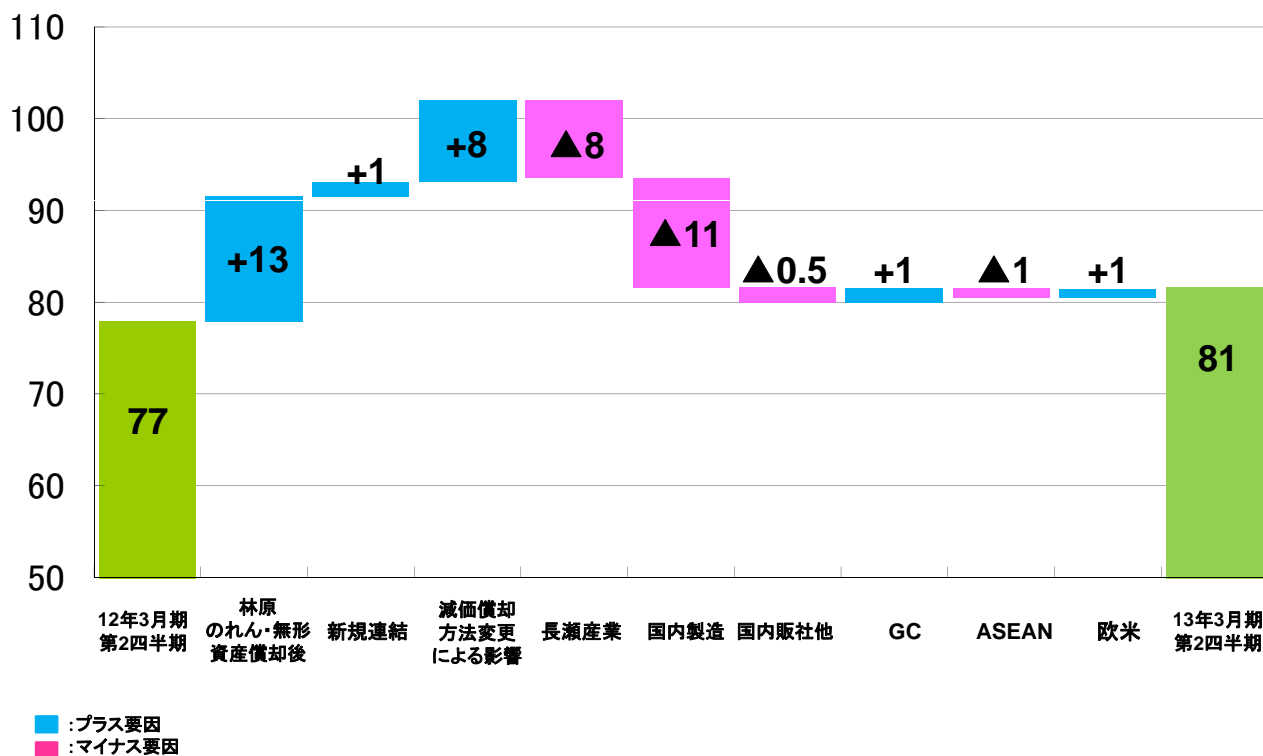
(単位:億円)



セグメント別 営業利益(前年同期比)

機能素材	30億円	▲3億円	11.3%減
加工材料	13億円	▲3億円	19.6%減
電子	30億円	▲1億円	4.3%減
自動車・エネルギー	5億円	+1億円	22.2%増
生活関連	19億円	+15億円	472.0%増

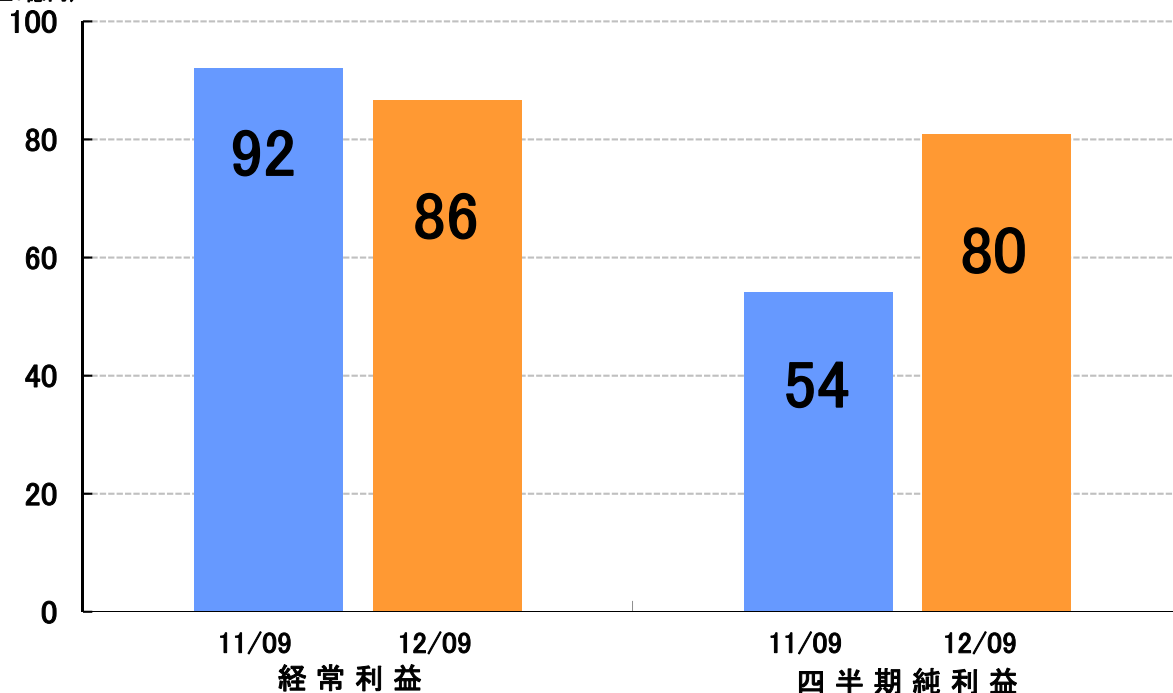
(単位: 億円)



経常利益 : 86億円 ▲5億円 5.8%減

四半期純利益 : 80億円 +26億円 49.8%増

(単位: 億円)



- ◆ 無担保社債300億円の発行に伴い、借入金188億円を返済
- ◆ 運転資金は、棚卸資産の増加があったものの、仕入債務の増加の影響で12億円減少
- ◆ 株価の下落により投資有価証券の含み益が減少(投資有価証券▲58億円、評価差額金▲34億円)

(単位:億円)

《資産》	12/03	12/09	増減	《負債及び純資産》	12/03	12/09	増減
現金及び預金	291	443	+151	支払手形及び買掛金	1,091	1,123	+32
受取手形及び売掛金	1,977	1,959	▲17	短期借入金	501	316	▲185
棚卸資産	452	489	+37	其他流動負債	223	211	▲11
其他流動資産	101	115	+14	長期借入金	382	378	▲3
有形固定資産	567	600	+33	社債	-	300	+300
無形固定資産	574	559	▲15	退職給付引当金	100	101	+1
投資有価証券	490	431	▲58	其他固定負債	81	72	▲9
其他固定資産	53	58	+4	株主資本	2,011	2,073	+61
				(うち自己株式)	(▲54)	(▲71)	(▲16)
				有価証券評価差額金	127	92	▲34
				為替換算調整勘定	▲91	▲92	▲1
				新株予約権	1	0	▲0
				純資産合計	2,127	2,154	+26
				(自己資本比率)	(45.4%)	(44.5%)	(▲0.9%)
資産合計	4,508	4,658	+150	負債及び純資産合計	4,508	4,658	+150

- ◆ 営業キャッシュ・フロー: 法人税等の支払31億円があったものの、税前利益118億円や減価償却費の足し戻し37億円等があり89億円の収入
- ◆ 投資キャッシュ・フロー: 有形固定資産の売却30億円があるも、有形・無形固定資産を77億円取得
- ◆ 財務キャッシュ・フロー: 社債発行による298億円の収入、借入金の返済230億円

(単位:億円)

	12/09	主な内訳	11/09
営業活動による キャッシュ・フロー	+89	税前利益 118 億円 減価償却費 37 億円 のれん償却費 8 億円 法人税等 ▲31 億円 等により	+17
投資活動による キャッシュ・フロー	▲49	有形固定資産の取得 ▲69 億円 無形固定資産の取得 ▲7 億円 有形固定資産の売却 30 億円 等により	▲49
財務活動による キャッシュ・フロー	+73	社債発行による収入 +298 億円 長期借入による収入 +42 億円 借入金の返済による支出 ▲230 億円 配当金の支払い ▲15 億円 等により	▲0
現金及び現金同等物の増減	+102	現金及び現金同等物に係る為替差額 ▲10億円含む	▲32
新規連結に伴う現金 及び現金同等物の増減	+9	長瀬電子科技(厦門)有限公司+6億円 Nagase India Private Ltd.+1億円、 ナガセツールマテックス㈱他3社+1億円	+1
決算期変更に伴う現金 及び現金同等物の増減	+37	日本+1億円、グレートチャイナ+38億円、アセアン▲5億円、 欧州+2億、北米+0億円	—
現金及び 現金同等物の期末残高	433	貸借対照表上の現預金残高443億円ー内3ヵ月超の定期預 金残高9億円=433億円	440

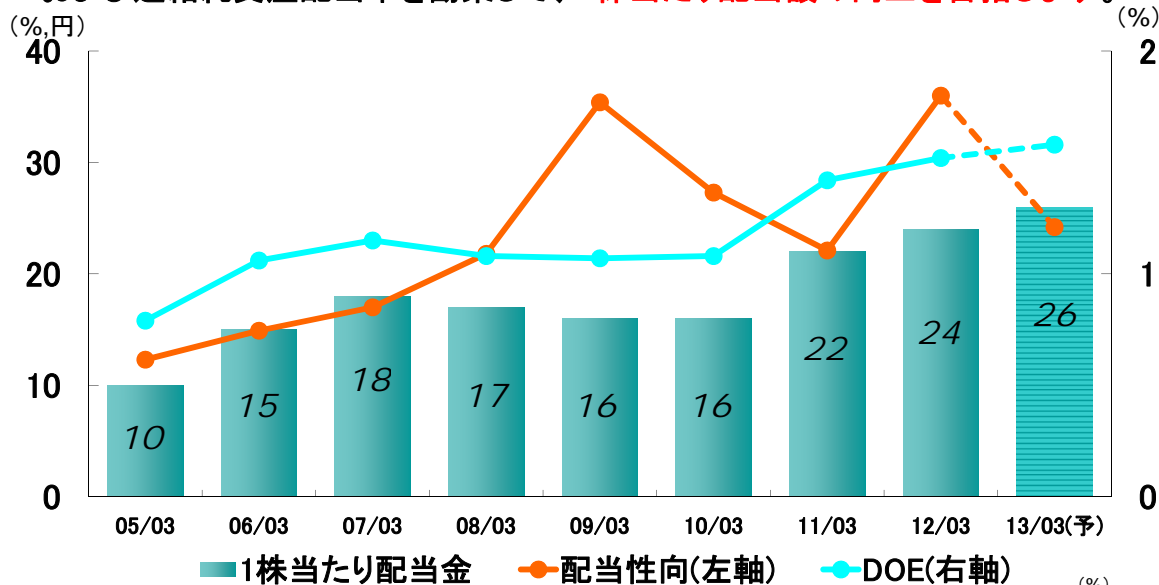
(単位:百万円)

	社名	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	四半期純利益	前年同期比
単体	長瀬産業	215,549	99%	1,169	66%	8,111	132%
製造会社	ナガセケムテックス	13,199	93%	1,458	92%	714	79%
	林原	12,680	-%	1,359	-%	1,070	-%
	東拓工業	3,753	99%	78	58%	63	60%
	※製造会社計※	44,483	132%	3,125	130%	1,732	133%
国内販売会社	ナガセプラスチック	14,738	96%	174	91%	98	90%
	ナガセケミカル	7,991	118%	101	89%	57	91%
	ナガセエレックス	4,374	116%	105	106%	58	106%
	※国内販売会社計※	40,388	87%	550	76%	321	78%
海外販売会社	長瀬香港有限公司	28,598	133%	537	164%	437	162%
	ナガセタイランド	14,368	114%	459	89%	339	91%
	上海長瀬貿易有限公司	12,559	106%	110	68%	27	23%
	※海外販売会社計※	137,572	122%	2,889	112%	2,105	98%

※注) 林原の業績は、のれん・無形資産償却後の数値となります。

※注) 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。

収益力の向上と企業体質の一層の充実強化を図り、連結業績連動を基礎とした、株主の皆様への安定配当を継続して行うことを基本方針としており、連結配当性向および連結純資産配当率を勘案して、**1株当たり配当額の向上を目指します。**



※13/3期の期末配当は、2013年6月開催予定の株主総会にて付議予定

2013年3月期業績見通し

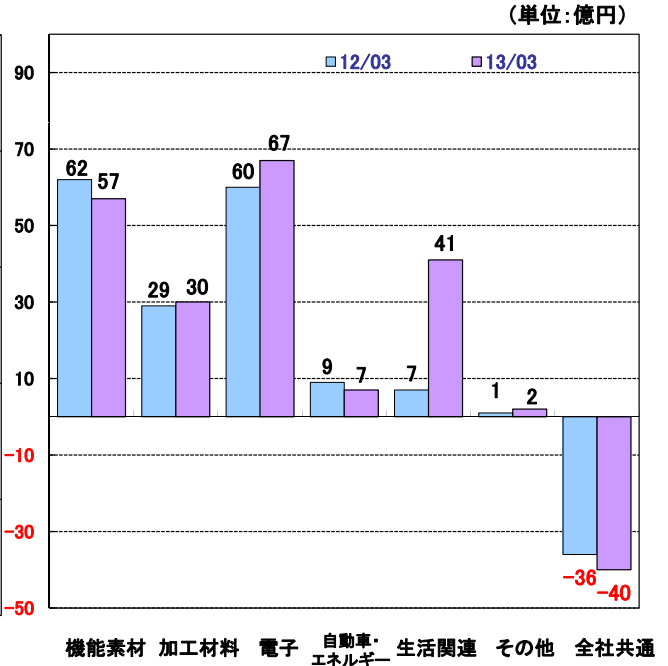
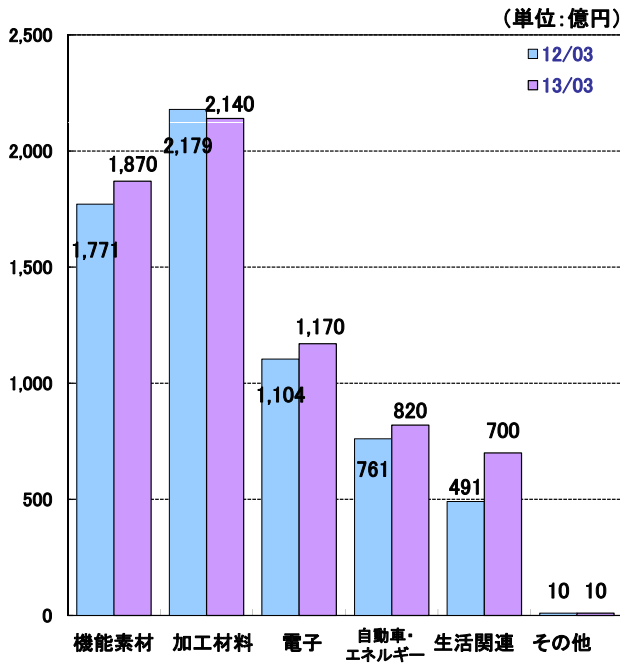
2013年3月期 業績見通し

(単位: 億円)

	12/03 実績	13/03 当初見通し	13/03			
			上期実績	下期予想	通期見通し	前期比
売上高	6,318	7,000	3,355	3,355	6,710	106%
売上総利益	716	875	413	427	840	117%
営業利益	134	195	81	83	164	122%
経常利益	156	205	86	90	176	112%
当期純利益	85	155	80	56	136	159%
1株当たり年間配当金	24円	26円	13円	13円	26円	-
想定為替レート(1US\$)	79.6円	78.0円	78.9円	77.0円	78.0円	-

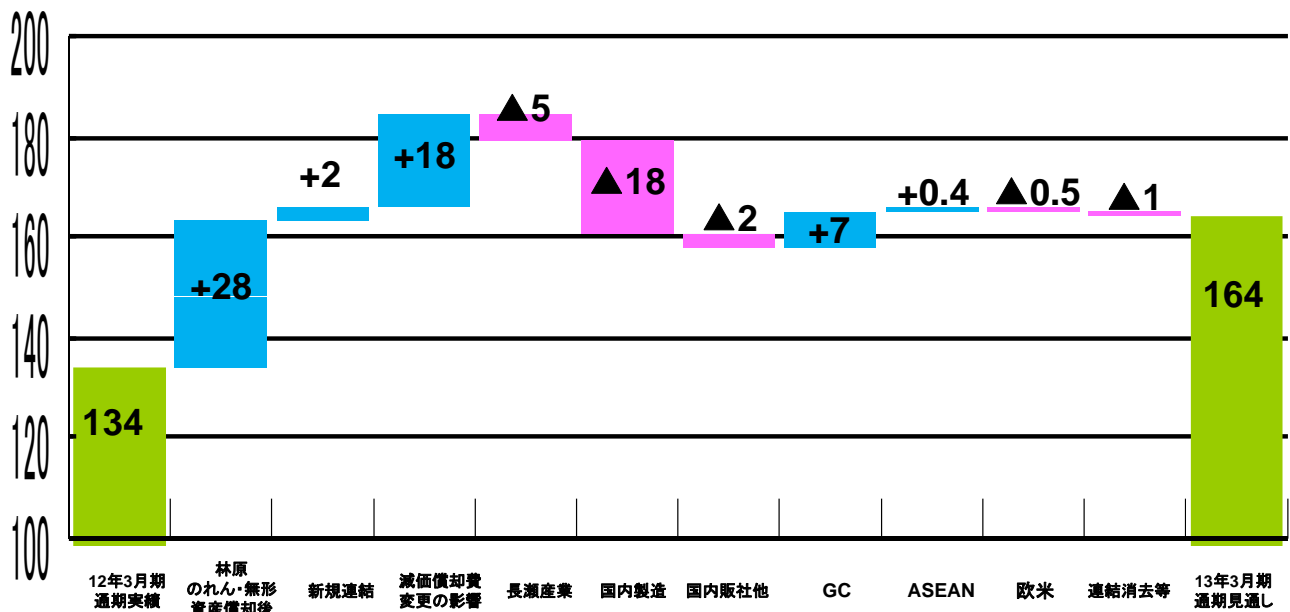
<セグメント別 売上見通し>

<セグメント別 営業利益見通し>



※12/03期の実績値は、旧セグメントの実績値を新セグメントに組み替えて算出してあります。

(単位:億円)



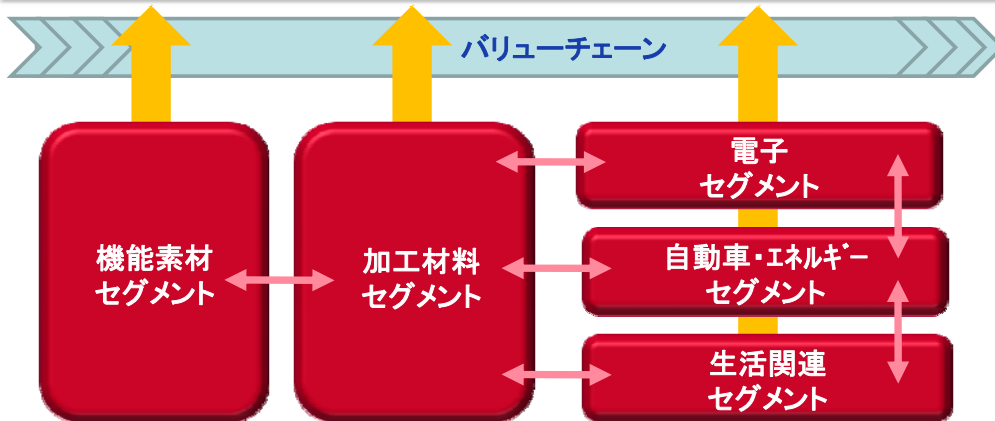
■:プラス要因
■:マイナス要因

“CHANGE”の加速の実現

バリューチェーン視点でのセグメント再編成により注力事業と機能分担を明確にし、各機能を組み合わせた総合力により「バイオ」「環境・エネルギー」「エレクトロニクス」技術を活用した重点分野を中心に事業成長を目指す。

<重点分野>

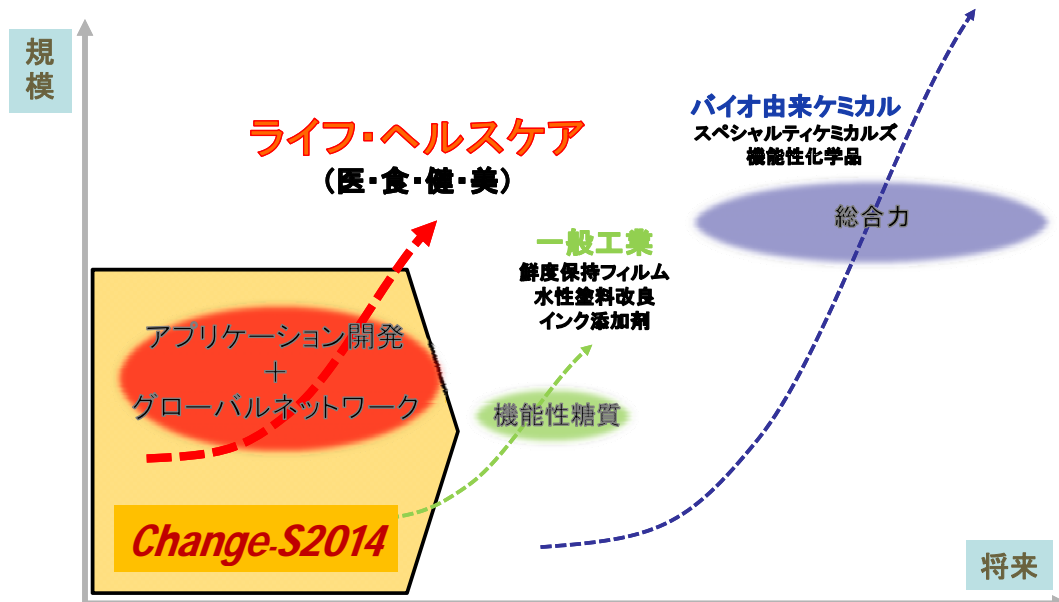
「バイオ」、「環境・エネルギー」、「エレクトロニクス」技術を活用した産業



重点施策： ◆グローバル化の推進 ◆高付加価値事業の創造 ◆運営基盤の強化

Change-S2014

林原との融合によるシナジー創出をスタート。**Change-S2014**では、商社機能（マーケティング、グローバルネットワーク）とメーカー機能（研究開発、アプリケーション開発、製造）の融合により、ライフ・ヘルスケア分野での事業拡大を目指す。



林原事業の進捗について

代表取締役 兼 専務執行役員

長瀬 玲二

「新生林原」誕生までの経緯

月日	内容
2011年 3月 7日	会社更生法適用
8月 3日	スポンサー決定
11月18日	更生計画提出
12月31日	更生計画認可の決定
2012年 1月28日	更生計画認可の決定確定
2月 1日	3社*合併「新生林原」誕生
2月 3日	出融資実施-長瀬産業（株）による100%子会社化
3月26日	更生手続終結の決定
3月31日	林原 第一期事業年度終了（2012年1月～3月）
4月 1日	林原 第二期事業年度開始（実質初年度）

* 3社とは(株)林原,(株)林原商事,(株)林原生物化学研究所を指す。

機能性糖質をベースとした事業で
世界のリーディングカンパニーへ



経営理念 誠実に正道を歩む

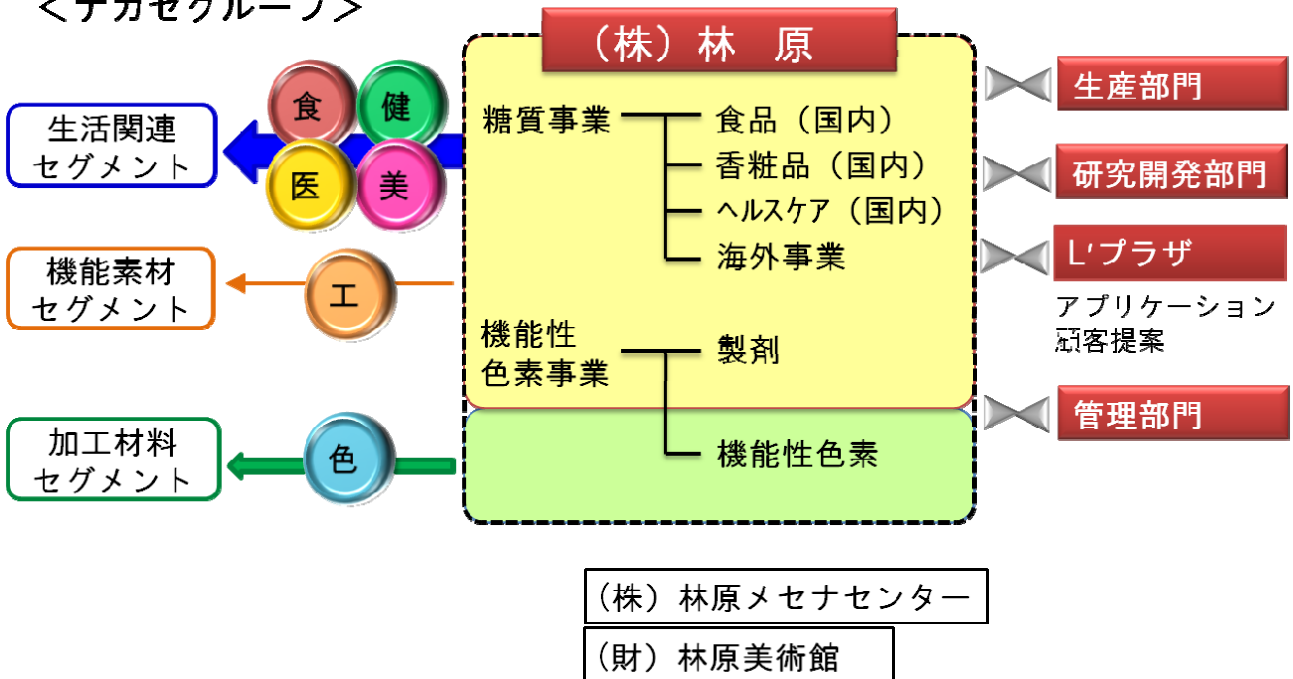
ビジョン

Technology たゆまぬ研究により、糖質科学を中心としたバイオテクノロジーを基盤とする独自技術で世界をリードする

Market 市場構造・環境の変化を先取りし、高機能な素材の提供によって顧客とともに発展する

People 事業を通じて、夢と理想を実現する場を提供し、世界の人々の健康と幸福に貢献する

<ナガセグループ>



トレハロース (トレハ®)

天然に存在する糖質。
新規な酵素の発見により、世界で初めて
澱粉からの量産化に成功。価格が従来の
100分の1にまで低下し、市場が拡大。

特性および機能

- 低甘味 ●着色しにくい
- 安定性に優れる（耐酸・耐熱性）

澱粉老化抑制、タンパク質の変性防止、
冷凍や乾燥による品質劣化抑制、組織癒
着防止、凍結細胞の保護、などの目的で
使用されている

★2012年度 トレハロースシンポジウム

遺跡から出土する木製品の保存液として
の利用（九州国立博物館）

- 高い寸法安定性
- 安価、安全、短時間に保存処理が可能



トレハなし

トレハあり



トレハなし トレハあり

安定型ビタミンC(AA2G®)

酵素により、不安定なビタミンCにブドウ糖を
結合することで安定化を実現。
安定型ビタミンCの量産化を可能にした。

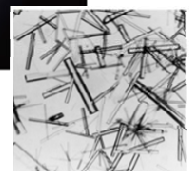
特性および機能

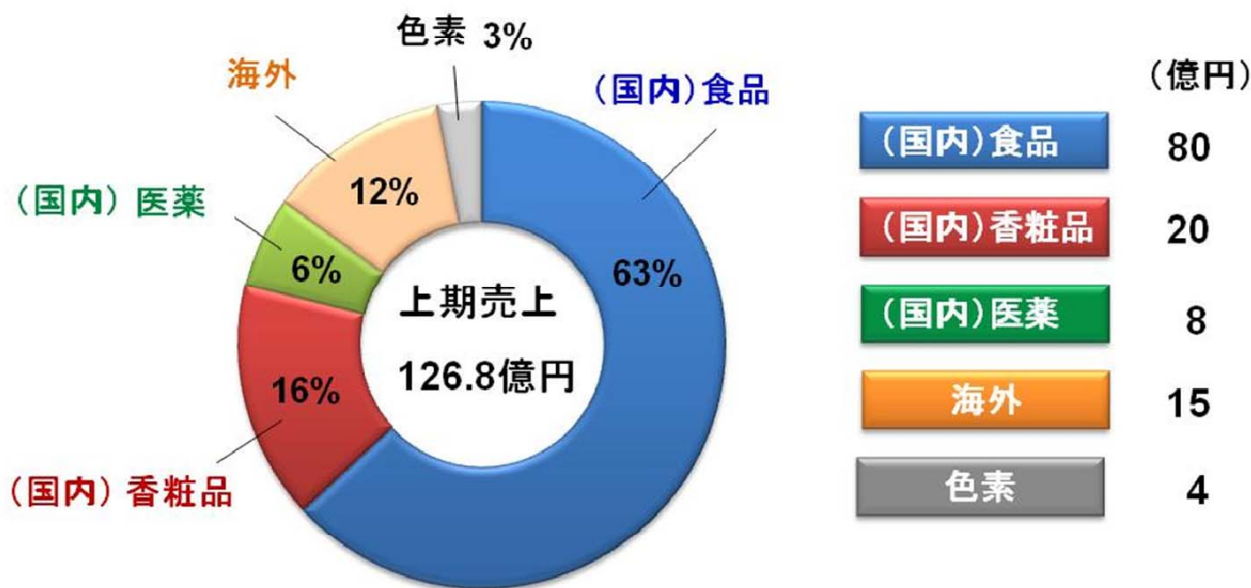
医薬部外品の主剤（美白薬用化粧品）として承認。食品添加物として指定。
生体内において、ビタミンCとしての生理活性を発揮。
熱や光の影響で分解され難い、酸素の影響を受けにくい。

今後の取り組み

- 美白以外の新たな効果効能を訴求していく

「皮膚表皮の新陳代謝を促進する」効果について
本年発表。今後も継続して新しい研究成果を発信
していく。





現状改善に向けた取り組み



成長拡大に向けた取り組み

運営体制の整備

品質保証体制の整備

採算性の向上

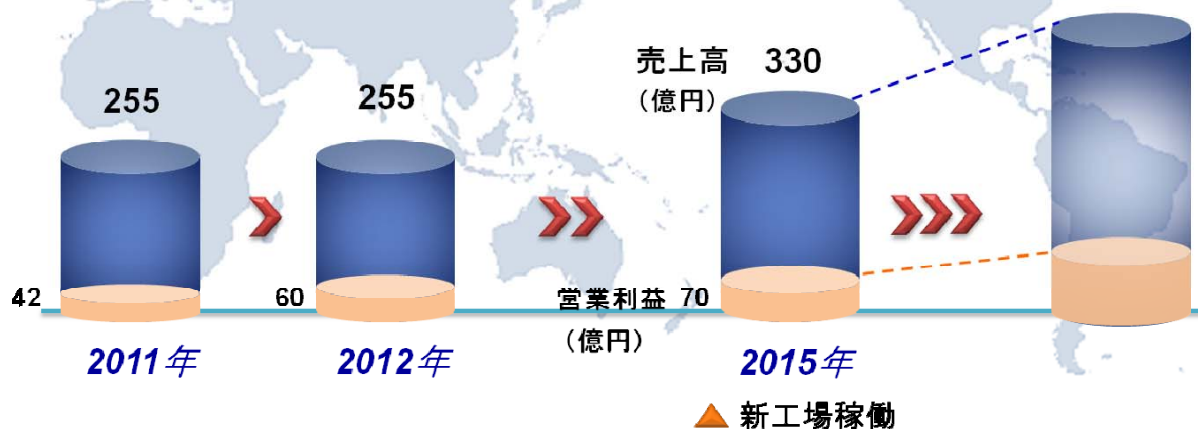
海外グローバル展開

既存製品の効能追加・アプリケーション拡大

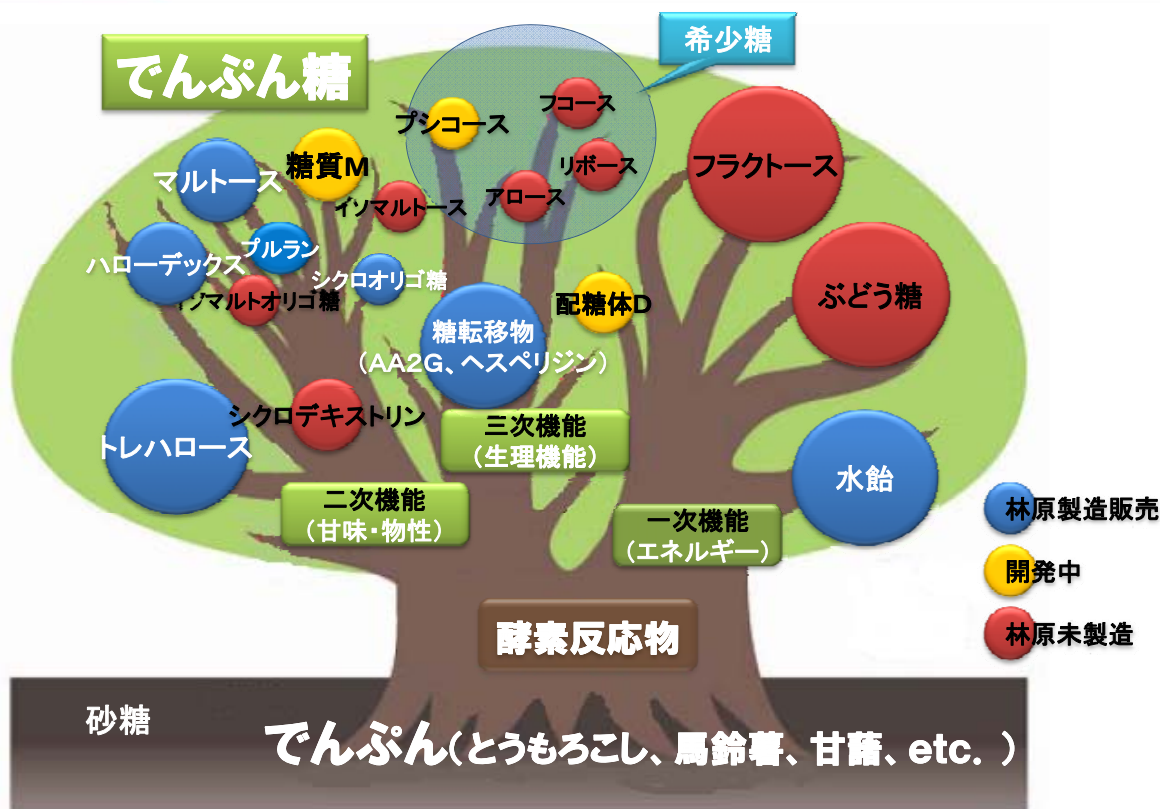
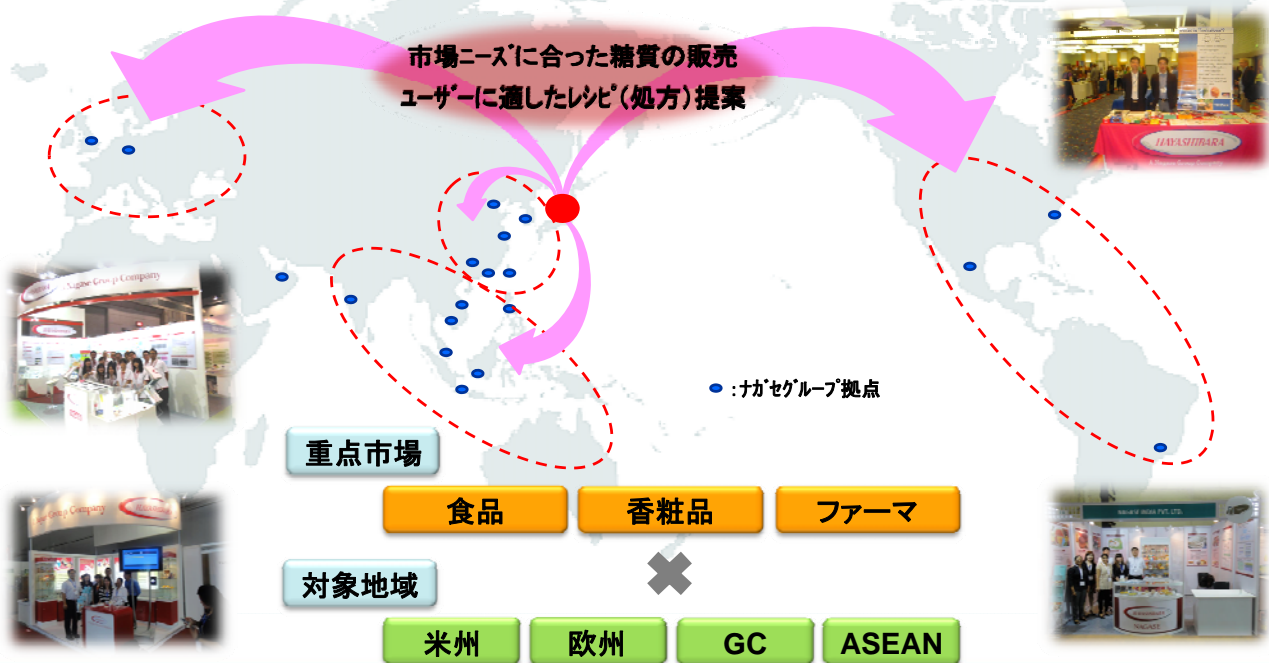
トクホ素材
「糖転移ヘスペリジン」
の育成・増産

次期製品群の市場投入

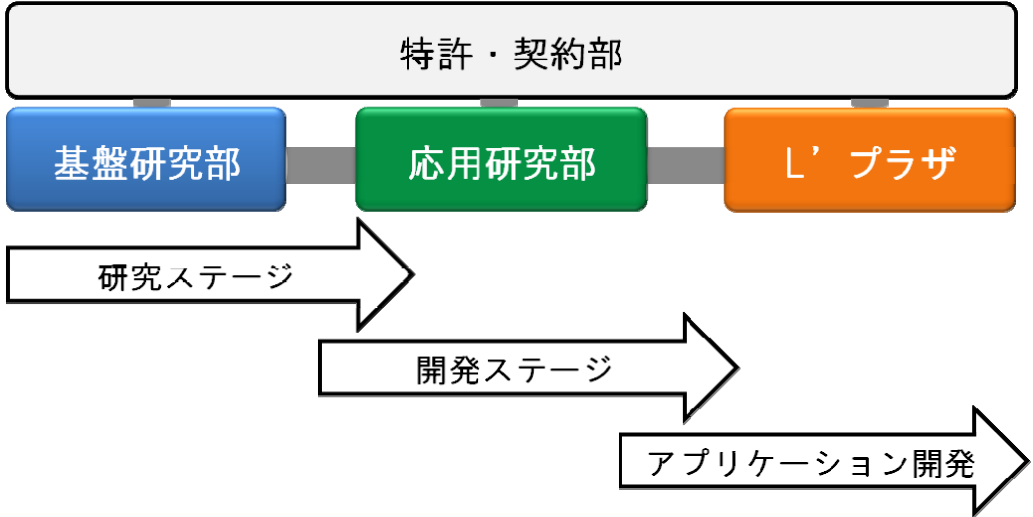
海外グローバル展開
の促進



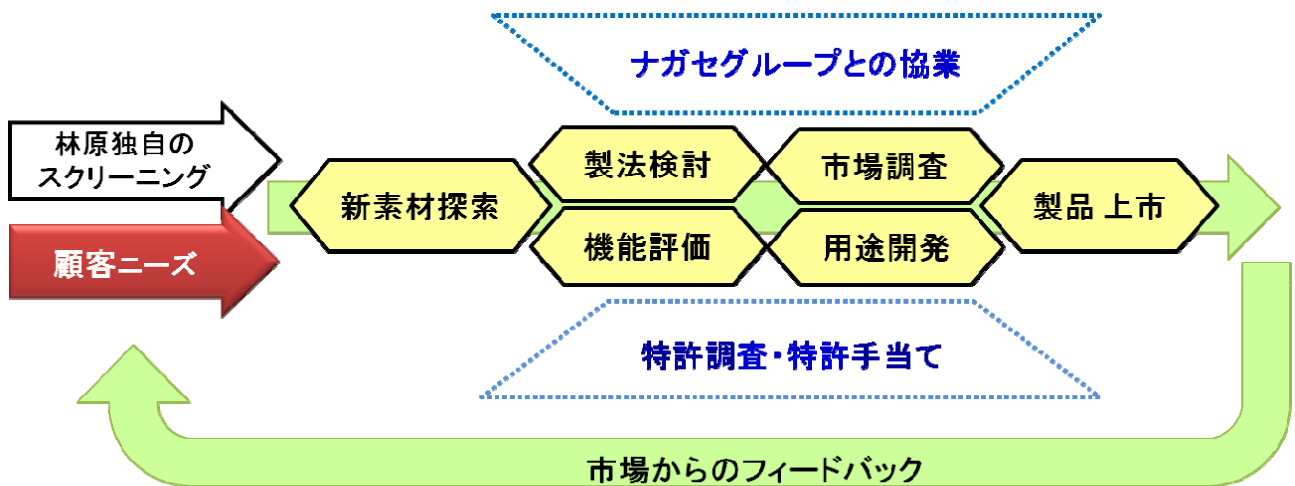
1. 林原の糖質が持つ機能を活用し、グローバル市場での認知度を高める
2. マーケットへのアクセス力を高め、販売体制を強化する
3. 多様な市場ニーズを認識し、プロダクト・ラインを充実させる



研究開発担当： 約100名
 研究開発費： 10億円 (2013年3月期予想)
 売上高研究開発費率： 4.6% (2013年3月期予想)
 特許保有件数： 1037件 (2012年9月30日現在)



➤ 新製品上市までの流れ



- ① グローバル基準の
食品安全および品質管理に関する認証取得を目指す

食品安全 FSSC 22000

品質管理 ISO 9001

- ② 計画的・継続的な投資による設備更新、ユーザー要望への対応、
コーシャ・ハラール対応

2012年度(予想) 設備投資・修繕投資額 約 5億円

- ③ 林原 新工場建設 ～ 第1工場移転と機能強化 ～

2012年10月15日プレスリリース

- 岡山市北区今保(約 6,000 m²) 及び 岡山市中区藤崎(約 12,000 m²)
- 2013年 4月着工、2015年 3月竣工予定
- 投資総額: 概算80億円
- 新工場: 稼働数年後に年間売上100億円を目指す。年産 3万トン規模。

(第1工場: 2011年度 売上 50億円)

- 現行製品の安定供給および増産
- フレキシブルな生産ライン
- 効率かつ省エネを追求した設計
- 新製品開発のためのパイロットプラントの設置

柑橘類に含まれる難水溶性のヘスペリジンに、ブドウ糖を結合することにより溶解度を10万倍に高めた。ヘスペリジンに比べて、体内への吸収効率が著しく向上。

糖転移ヘスペリジン(モノグルコシルヘスペリジン)に**血中の中性脂肪を低下させる作用**があることを見出し、その効用を利用した製品として、(株)伊藤園より「スタイリースパークリング」、大正製薬(株)より「ミドルケア」、(株)佐藤園より「緑の搾茶」が**特定保健用食品**として今夏に発売開始。

今後の取り組み

- 「糖転移ヘスペリジン」の認知度を高めるために、セミナーやシンポジウムの開催
- ユーザーによる特定保健用食品の開発をサポート
- 用途拡大に向けた研究開発の強化



知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2012年11月22日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。また、一部資料に監査を受けていない参考数値が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。